
教育総合センター

だより

NO. 97

平成17.9.1

挨拶は心のキャッチボール

尼崎市立名和小学校
校長 松嶋 義雄



挨拶から一日の生活が始まります。挨拶は、わたしたちにとって生活のバロメーターでもあります。登校途中や校庭などで「おはようございます!」と、元気のいい声が聞こえてくるのはとても気持ちがいいものです。どこの学校でも繰り返されている朝の光景でしょう。

挨拶は、単に形式的に行われるものではなく、挨拶を交わす人々の心のキャッチボールでもあります。「おはようございます!」という言葉には、「今日も一日よろしくお願ひします」とか「今日も元気で頑張っていますね」といった相手の体や心に気を配る温かい思いやりもあるような気がしてなりません。

校務員さんや安全管理員さんがにこにこしながらこんな話をしてくれました。「六年生のAさんが、よく『おはようございます!今日もいい天気ですね』と、声をかけてくれるんです」「Bさんは、『校庭がいつもきれいですね。ありがとうございます』と、挨拶してくれるのです。私たちも、とても励みになります」と。ちょっとした挨拶は、

周囲の人々をさわやかな気持ちにします。

礼儀は、他の人と協調して社会生活を営んでいくために身に付けなければならない大切なものであります。礼儀は、頭で理解するだけでなく、毎日繰り返すことによって自然に表現されるようになります。

礼儀の中でも、とりわけ生活における基本として重要なものは、挨拶であります。挨拶をするということは、相手を重んじ、大切に示す姿勢を示すとともに、親愛の情や人とのかかわり合いを望む気持ちを表現する行動・作法であります。対人関係を広げ、深める最初の第一歩は挨拶に始まると言ってもよいでしょう。「心の教育」推進のためにも、挨拶がしっかりできる子どもたちを育成していきたいと思っています。

訪問指導員の先生から、「中学を訪問したら、今年の中学生、特に1年生はとてもよく挨拶をしてくれます」と聞いたとき、とても嬉しくなりました。

「心を元気にする対話術」に学んで

1 変わってきた相談傾向

近年の子どもたちをとりまく社会環境の変化は大きく、学校においてもこれまでの常識や知識、経験だけでは、うまく対応しきれない事例が増えています。

教育相談課においても、落ち着きがなく課題に集中できない、ルールが守れない、些細なことでキレる等の子どもの行動や関わり方についての相談が増えており、中には、いじめや不登校に発展したケースもあります。子どもや保護者との関係づくりも難しくなっており、具体的な助言を望む先生方の声も多くなっています。

2 夏休みには「心の教育相談研修講座」

これらの新たな課題や状況に対応するため、子ども理解を進め、有効な手立てを見いだす研修が求められています。

教育相談課では、最近の相談傾向や講座に参加いただいた先生方のアンケートをもとにテーマを選定し、夏休みには「心の教育相談研修講座」を実施しています。

平成17年度は、「不登校の子ども理解と親へのアプローチ」「学校における危機対応と心のケア」「子ども虐待 - その理解と対応の基礎 - 」「軽度発達障害の子ども理解と親への支援」「親と子どもへの効果的な援助法 - 心を元気にする対話術 - 」をテーマに実施し、多くの先生方に参加いただきました。どの講座も、それぞれ興味深い内容でしたが、ここでは、「親と子どもへの効果的な援助法 - 心を元気にする対話術 - 」(講師：神戸松蔭女子学院大学 東 豊 教授)の一部を紹介します。

3 相手にとけこむコツ

子どもを支援する仕事では保護者の協力を

得ることが重要です。ところが、そのためのコミュニケーションをうまく図るには、いくつかの工夫が必要です。

そこで、東教授は「相手にとけこむコツ」と「相手を元気にする会話術」の2点を取りあげ、実践的な講話を展開されました。

前者については、相手の話を聞きながら「いいですね!」「よかったですね!」などの共感的コメントやオウム返しをタイミングよく入れること、そして、うなづくなどの身体表現を用いることの実演をもって示され、相手の雰囲気、関心事、動作、ルールに合わせて聞くなど「相手にとけこむコツ」を、参加者もいっしょに体験させていただきました。

4 相手を元気にする会話術

また、後者では、話の中にある肯定的な部分をキャッチするアンテナを立て、いつもと異なる結末になった例や解決策に強く反応して、話の強調点を変化させること、いいことを最後にもってくるなど話題の順番を変えること、どのように乗りきってきたかを尋ねて、相手が語るストーリーの展開を変えること等によって、話し手が、「困難な状況にもかかわらず、乗りきってきた私」に気づいて、自信と元気を回復する会話術を披露されました。

講話を聞きながら、参加者は自分の話しぶりを振り返ることができ、さっそく、今後の実践に活用しようと思われた方も多かったのではないのでしょうか。まさに、参加者の心も“元気になる”妙薬でした。

今後も先生方の声と学校のニーズに即した講座を企画していきたいと考えています。

(教育相談担当係長 西本 由美)

平成17年度 もう一つの教職員研修

「教育総合センターだより」第96号でお知らせしましたように、教育総合センターでは、教職員の指導力向上と意識改革を大きな責務として、次のような研究・研修事業を実施しています。

- (1) 基本研修
- (2) 専門研修
- (3) 派遣研修
- (4) 特別研修
- (5) 教育研究

1 勤務時間外に研修を

学期中の研修講座は基本的に午後3時30分から開始しています。そのため、授業時間やクラブ活動の指導の関係で、受講したい研修講座を受講できないというようなお話をよく耳にします。

そこで、今年度から勤務時間外に、勤務場所を離れての自主的な研修を設定して、6月から実施しようということになりました。

2 トワイライト自主研修講座

- 木曜シリーズ -

せっかくの自主的な研修ですから、固い研修名はやめようということになり、夕刻の研修なので「トワイライト自主研修講座」と命名しました。

(1) 目的

- ・ 子どもたちの学びを支援する、より効果的な実践方法を考える。
- ・ 教育のプロとしての力量を高める。
- ・ 市内の教職員のネットワークを活性化し、受講者相互のノウハウを共有する。

(2) とき

(毎) 木曜日

午後6時から午後7時30分まで

(3) 内容

- A 授業づくり
- B 学級経営
- C 情報教育
- D 教育事務
- E 教養

あくまで、自主研修講座ですので、出張扱いにはなりません。基本研修の20年目教員研修の該当講座としてカウントされますので、ぜひ参加してください。

3 和やかな雰囲気

6月2日から研修を開始しました。最初は若い先生方のサポートや授業で使えるちょっとしたアイデアやコツを中心とした内容で始めました。参加者はおられるかなと心配していたのですが、思った以上に盛況で、毎回和やかな雰囲気の中で研修が行われています。



【トイレットペーパーの芯でけん玉づくり】

4 講師も自主的に

今年度は20回程度の講座を予定しています。初年度ということもあり、ほとんどの講座の講師は教育総合センターの指導主事が担当しています。テーマは、自分が得意とする分野や自身が伝えたいテーマを中心に設定しています。日頃指導主事として担当している研修講座の内容とは趣の違う内容を担当する場合がありますので、そのギャップもおもしろいところです。

また、トワイライト自主研修講座では、受講される方だけではなく、講師をしていただける先生方を募集しています。先生方が持つおられる自慢の授業のネタ、得意の分野を広めていただく絶好のチャンスです。我こそはと思われる方は、校長先生を通じて教育総合センターまでご連絡をお願いします。

各講座の詳細や予定の変更は、随時、教育総合センターのホームページでお知らせしています。基本的に木曜日の午後6時から午後7時30分までを予定していますが、確認のうえ事前にノーツを使って参加申し込みをください。(<http://www.ama-net.ed.jp>)

(情報教育担当係長 米田 浩)

教育情報コーナーへどうぞ - おすすめ本 -

秋の訪れとともに、学校行事や各種の研究会活動等々と、先生方の忙しさのバロメータも急上昇でしょうか。そんな日々の中少しでもお役に立てる本を、新刊の中からご紹介いたします。

すぐに使えるお役立ちワーク集、少しずつコツコツと。

- 『基礎学力を高める音読・朗読・暗唱ステップワーク』
(低学年・中学年・高学年) 瀬川榮志監修
- 『話すこと・聞くことマスターカード』
(低学年・中学年・高学年・中学校) 瀬川榮志監修
- 『発信・受信の双方向で「伝え合う力」を育てるワーク』
(小学1年～6年) 瀬川榮志監修
- 『要約力を磨く説明文の指導～国語力をつけるワークの開発』
瀬川榮志監修
- 『つまずき撃退補充学習シート』
(小学1・2年～6年) 中村享史監修
- 『社会科基礎・基本を確実に身につけさせるワーク』
(小学5年～6年) 有田和正監修
- 『すぐ使える体育学習カード資料集』
(中学校) 名古屋市体育研究会

子どもの読書活動の推進 - - 誰が、どこで、どういう本を薦めたらいいのでしょうか。

- ・『心の扉をひらく本との出会い～子どもの読書環境をめざして』 笹倉 剛
- ・『感性を磨く読み聞かせ～子どもが変わり、学級が変わる』 笹倉 剛
- ・『子どもの未来ををひらく自由読書～関心をひきだす読書指導のコツ』 笹倉 剛
- ・『先生いっしょに本を読もうよ』 吉田法子
- ・『ブック・ウォークで子どもが変わる』 井上一郎

ネット、ケータイによって子どもたちの世界は大きく変化しています。

- ・『ネット依存の恐怖～ひきこもり・キレル人間をつくるインターネットの落とし穴』 牟田武生
- ・『大人の知らない子どもたち～ネット、ケータイ文化が子どもたちを変えた』 今 一生
- ・『メディアとのつきあい方学習～情報と共に生きる子どもたちのために』 堀田龍也

紹介の本は、教育情報コーナーにあります。閲覧及び貸し出しもできます。

また、図書・資料等のお問い合わせがありましたら、お気軽におたずね下さい。

(教育情報コーナー担当 幾田)

開館時間のご案内

平日：午前9時から午後9時
ただし、教育相談は、
午後5時15分までとします。
なお、次の日は取り扱いいたしません。
【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】

発行	尼崎市立教育総合センター 〒661-0024 尼崎市三反田町1-1-1 06-6423-3400
発行者 題字	倉橋 忠 教育委員長 岡本元興